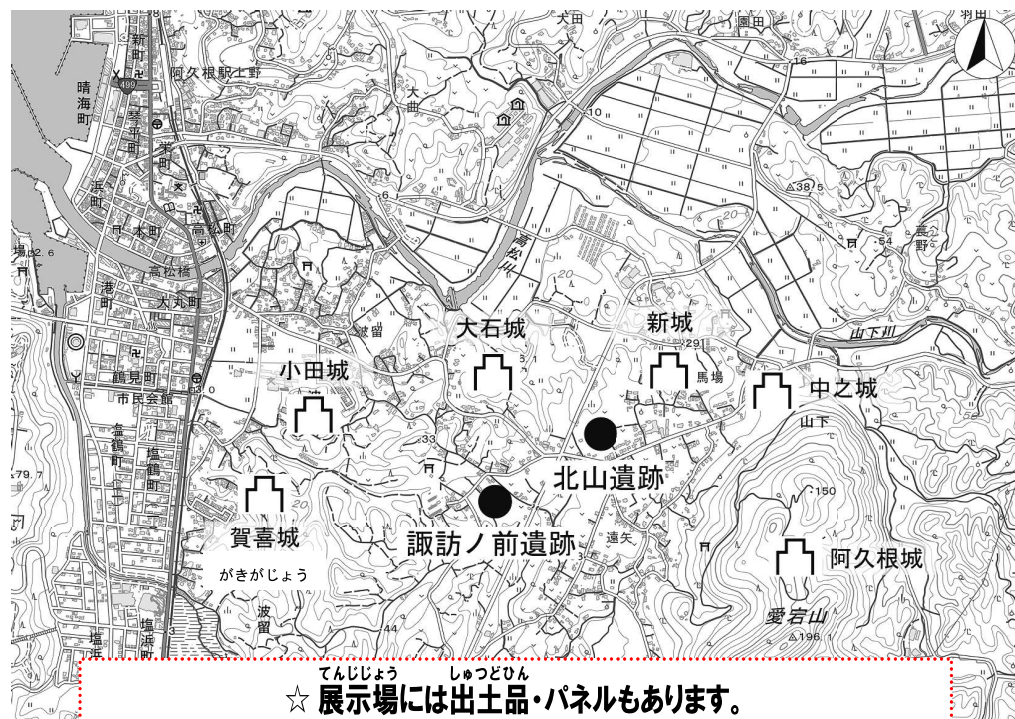
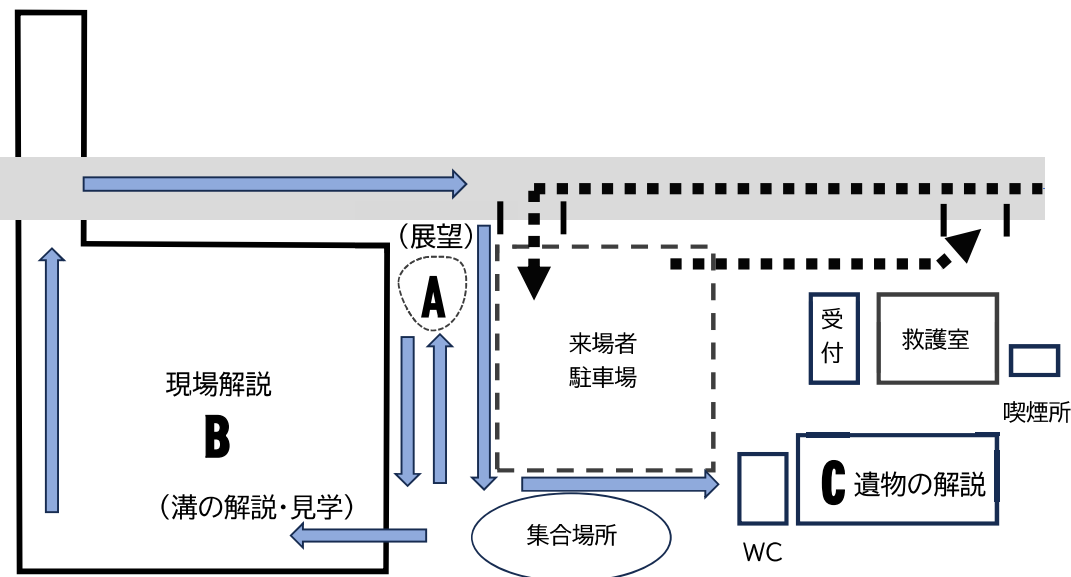


北山遺跡周辺 阿久根氏関連城跡位置図



遺跡見学コース



阿久根市山下

北山遺跡

発掘現場公開資料

令和7年10月11日(土)



発掘調査のようす



上空からみた北山遺跡

ようこそ いらっしゃいました!!

今日は北山遺跡の発掘現場を公開します。

今から阿久根市山下の大昔ヘタイムトラベルするよ!



北山遺跡は、阿久根市山下に位置し、南九州西回り自動車道(阿久根川内道路)建設に伴い、令和2年度から令和7年度にかけて調査されている遺跡です。

縄文時代から近世にわたる遺跡で、特に鎌倉時代の溝状遺構や掘立柱建物跡などが規格的に配置されていた可能性があります。

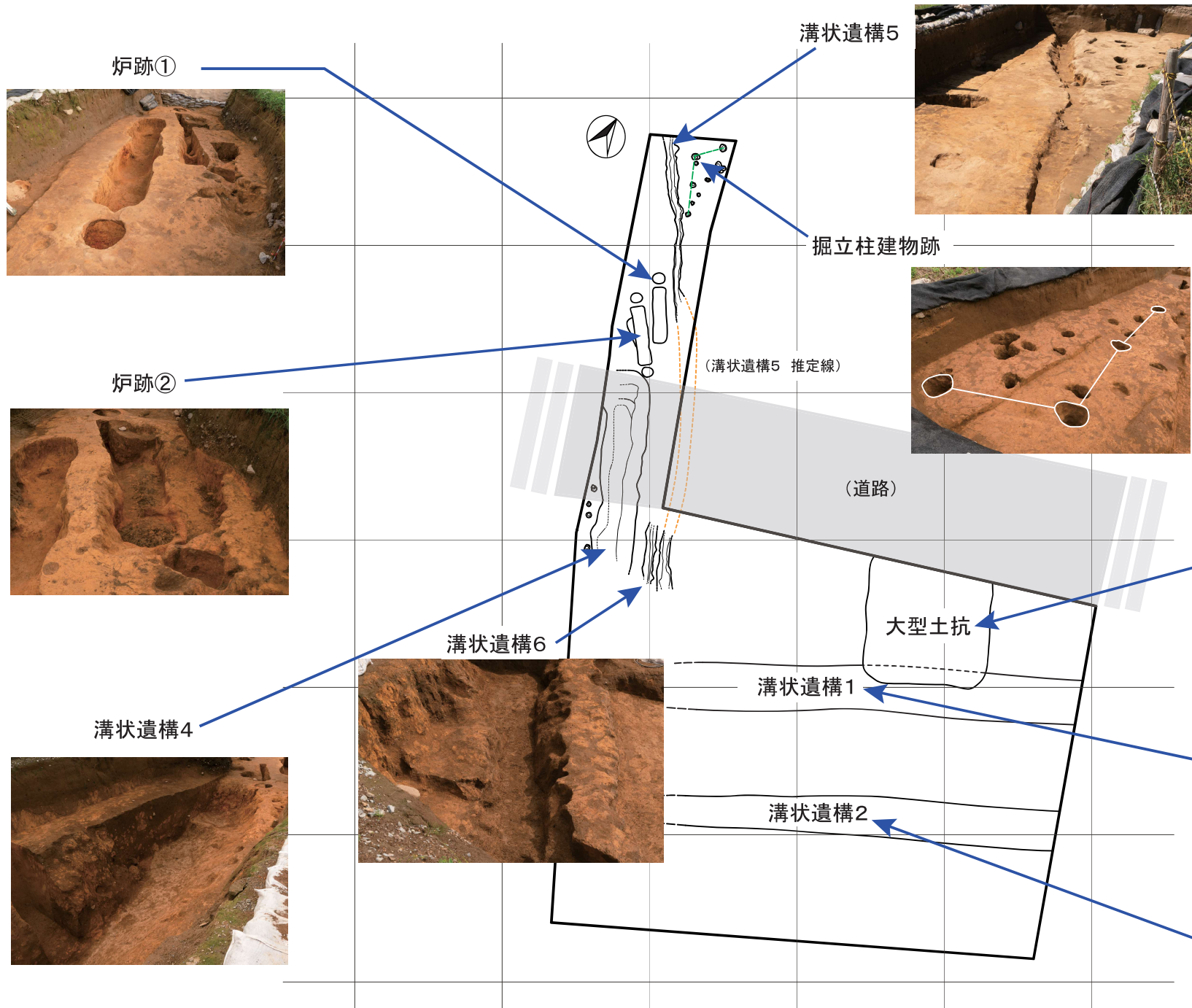
主な出土遺物は、青磁・白磁・青花といった中国産の陶磁器や、すり鉢、石臼などがあります。

これらのことから、地域の有力者層の集落と交易があったと考えられます。



(公財) 鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
問い合わせ先 0995-70-0574 (代表)

<< 北山遺跡でみつかった様々な施設のあと >>



1マス=10m×10m

北山遺跡では、鎌倉時代（約700年前）の大型の溝状遺構が複数発見されました。幅約3m、深さ2mで、^{やげんぼり}薬研堀と呼ばれる形態です。また、江戸時代にも複数の小規模な溝状遺構や大型土坑もみついています。大型の土坑からは、貝殻や獣骨が多数出土しています。このほか、炉跡や掘立柱建物跡など、生活に関わる遺構も検出されています。

これらの発掘調査成果から、長い間、人々が住み続けていたことがわかります。

